

三宅島に行ってきました！(創造理数科企画 三宅島フィールドワークの報告)



8月16日21時45分に東京港竹芝桟橋に集合し、今回のフィールドワークが始まりました。参加人数は創造理数科男子5名、普通科からは女子5名、男子5名、引率教員3名でした。

翌日の17日午前4時半に船内の照明が点灯され、1日目の長い研修が始まりました。5時に三宅島の三池港に到着し、バスで宿舎に移動して仮眠、7時に朝食をとり、9時からいよいよ本格的な活動を開始しました。18日(2日目)の天気予報が雨ということで、当初の予定を調節し、17日はおもに溶岩流跡やスコリア丘にみられる一次遷移初期の植生調査を中心の活動を行いました。具体的には1983年の溶岩流跡に見られる植生の調査をして、その後1983年のマグマ水蒸気爆発で消失した新霽池跡の植生が回復しているようすを観察しました。1983年の溶岩流跡にできているオオバヤシャブシ林にもやぶこぎをししながら入り、そこでも調査を行いました。昼食後には、1962年噴火でできたスコリア丘に成立するパッチ状の植生の調査を行いました。また、昭和15年の噴火でできたひょうたん山の火口やその周辺の植生や、海岸にある火成岩の観察なども実施しました。夕食後には調査したデータのまとめや分析を行い、その後、近くの港で星座の観察を行い、星や星座に関するレクチャーを受けました。



写真1 1983年の溶岩流跡の調査



写真2 オオバヤシャブシ林での調査

18日は、遷移が進行した照葉樹林(極相樹種の森)の観察および植生調査を中心に行いました。最初に伊豆諸島最大の大路池周辺に存在するスダジイ林の観察と植生調査を行いました。この池の周囲は野鳥の生息地としても有名で、今回のエクスカージョンでもカラスバト、イイジマムシクイ、アカコッコなどの天然記念物に指定されている鳥を確認することができました。その後、都立三宅高等学校の視聴覚室をお借りして昼食をとり、同教室で気象庁三宅島火山災害連絡事務所長の長谷川嘉彦氏から、火山の監視に関する講義を受けました。午後は、2000年噴火の降灰と泥流・火山ガスによる攪乱を受けた椎取神社を見学し、神社周辺のスダジイ林の植生調査を行いました。その後、三宅島でもっとも古いと考えられている薬師堂の森に移動し、800

年以上も火山による大きな被害を受けていないとされるスダジイ林の観察および植生調査を行いました。なお、薬師堂のスダジイ林は3年前の台風で一部にギャップが生じており、割れた落ちたスダジイの幹の様子やギャップでの植物の競争の様子を観察することもできました。

19日は地質学的な見地からのエクスカージョンを実施しました。1983年の溶岩流で押しつぶされた阿古小中学校の観察から始まり、伊豆岬では、地層を観察することによりどのようなことがわかるのか、何が見えてくるのかなどについてのレクチャーがありました。その後サダドー岬に移動し、溶岩でできた断崖の上から柱状節理の観察を行い、溶岩上に残っている各種火山弾、形状の異なる溶岩、岩石に含まれる鉱物とそれぞれの違いなどを観察しました。また、サダドー岬からは多くのアオウミガメを観察することもできました。

帰りの船では、デッキでは1962年の噴火跡のようすやトビウオやオオミズナギドリなどの生物を観察(残念ながらクロアシアホウドリやクジラ類は観察できませんでした)し、船室内では夏休みの宿題をやるなどしてし、充実した時間を過ごしていました。



写真3 ひょうたん山での調査

なお、今回のフィールドワークのレクチャーについては引率した可長(地学関係)、田中と中村(生物関係)が行いました。



写真4 太路池の遊歩道



写真5 太路池と照葉樹林



写真6 オオハヤシヤブシの根粒観察



写真7 スコリア丘での植生観察



写真8 長谷川氏の講義



写真9 サダドー岬でのレクチャー



写真10 宿舎でのデータ整理



写真11 三宅島ともお別れ